

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 22 日現在

機関番号：32305

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25381319

研究課題名(和文) 知的障害特別支援学校における個別カリキュラムとキャリア教育の実践的検証

研究課題名(英文) Action Research on Career Education based on Individual Curriculum in a Special School for the Mentally Handicapped.

研究代表者

松田 直 (Matsuda, Tadashi)

高崎健康福祉大学・人間発達学部・教授

研究者番号：60099942

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：小・中学部からの継続的なキャリア教育の再構築、卒後の就労実態、及び重度障害者の就労環境の充実について、毎月1回、群馬大学教育学部附属特別支援学校においてミーティング(就労支援プロジェクトミーティング)を行った。協議を踏まえ、附属特別支援学校においては、個別カリキュラムをベースにして小中高等部が一貫して日常の授業実践を行ってきている。卒後の就労実態に根差したキャリア教育のモデル提示を目指し、平成26年度より、附属特別支援学校高等部生徒たちによる喫茶サービス活動及びビルメンテナンス活動を行った。就労環境により近づけて学習環境の整備を行うことが、生徒たちの意欲向上、及び発展的な学習につながった。

研究成果の概要(英文)：We discussed on the reconstruction of career education program from elementally to upper secondary department of the special school attached to the Department of Gunma University. We also discussed on the present situation of work life after special school education, and particularly for the severe handicapped. Daily education programs have been created and reconstructed on the basis of individual curriculum for every child of three departments of this special school.

We have been trying to create models of career education based on the present situation of work life after special education, particularly in the tea service program and building maintenance program for the children of upper secondary department in this school. It was suggested that to make the conditions of the daily education programs similar to real situation is critically effective for each child to facilitate career learning and for each teacher to reconstruct the programs from the viewpoint of career education.

研究分野：特別支援教育

キーワード：知的障害 特別支援学校 キャリア教育 個別カリキュラム

1. 研究開始当初の背景

(1) 障害者権利条約の批准を目指した障害者基本法の改正等を背景に、近年、より多くの障害者が一般就労できるような支援体制を構築していくことが求められており、各事業主及び自治体等の職場環境整備の必要性と同時に、特別支援学校高等部等の教育の場で、より一般就労につながるような移行支援のあり方が求められている。また、新学習指導要領においても、「キャリア教育」の必要性が明記されている。しかし、卒後の一般就労が難しい、一般就労で採用はされたが数年以内に離職してしまう、といった現実もある。

(2) 我々の研究グループでは、平成12年度以降、障害者の就労支援について、以下のように継続的に研究を進めてきている。

卒業後の実態についての調査

卒業生本人を対象(平成12年)、事業所を対象(平成13年)

事例研究(平成14年)

「重度知的障害者の就労促進を目指す研究開発プロジェクト」(平成16年～至る現在)

「就労場面における作業能力評価に基づく養護学校高等部の個別移行支援プログラムの開発(基盤研究C,平成16～18年度)

「大学の資源を活用した養護学校高等部における現場実習の在り方に関する研究」(基盤研究C,平成19～21年度)

以上一連の研究を通し、「大学の資源」として、支援者としての学生の介入、就労の場としての大学の活用、専門家としての大学教員の関与が実現する中で、本人の障害特性を踏まえた支援計画に基づき、キャリア教育を積み重ねた上で現場実習に至ることが、採用及び職場定着に結びつくことを実証的に確認した。我々の研究グループは、学内で障害者雇用を進める関係者と連携しつつ研究実践を進めてきており、「協働的支援」体制を構築してきた。

(3) (2)に見られるような、就労支援における継続的な研究の蓄積を踏まえ、「大学の資源を活用した協働的支援によるキャリア教育・就労定着プログラムの開発(基盤研究C,平成22～24年度)において、附属特別支援学校小学部・中学部のキャリア教育の実践に反映させるための実践的研究を進めた。卒後の就労実態と、卒業生達が在学中に設定した目標、及び実践された授業内容とを比較し、小～高等部で実践されてきたキャリア教育の目標設定及び教育内容の再構築を行おうと考え、本研究を計画した。

2. 研究の目的

知的障害者の就労支援を学齢期より継続して行うためのキャリア教育のモデルを提示することを目的とする。

3. 研究の方法

大学、附属特別支援学校の学附連携により、小・中学校から高等部、卒後につながる継続的なキャリア教育の再構築を実施すると共に、高等部においては一般就労と結びつけるための学習環境の整備についても試行を行う。

(1) 「就労支援プロジェクトミーティング」を毎月1回、群馬大学教育学部附属特別支援学校を会場として開催した。参加メンバーの構成は、本研究の代表者・分担者、附属特別支援学校副校長・研究部所属教員・高等部所属教員、附属特別支援学校の研究協力者(卒業生を受け入れている社会福祉法人の施設長)、群馬大学教育学部障害児教育専攻学部学生・専攻科生・内地留学の現職教員等であった。

(2) 個別カリキュラムに基づいた、スムーズな就労移行を目指す学習指導

(群馬大学附属特別支援学校高等部)

地域で喫茶店を開く取り組み

附属特別支援学校、附属小学校でのビルメンテナンスの取り組み

4. 研究成果

3(1)に関して

卒後の就労実態や小学部から高等部までを通したキャリア教育について研究協議を重ねた。

研究協議の具体的な議題は以下の通りである。

附属特別支援学校において毎年実施してきた卒業生の就労先への訪問調査等を踏まえ、平成24年度に整理された「子どもの将来を見通して、大切にしたい12のこと」について個別カリキュラムを踏まえて小学部から高等部まで日々の授業実践にどのように具体化するか。

県内外の障害者雇用の広がりや学校のキャリア教育との連携の在り方について。就労と共に重視されるべき「余暇活動の充実」に関する重複障害者の学習に関する経過に関して。

「一般就労」のいわば対極にあると考えられる「重症心身障害者の在宅医療に支えられた地域生活のあり方」に関して。附属特別支援学校高等部生徒が地域で喫茶店を開く取り組み、及び、学校敷地内でのビルメンテナンスの取り組みに関して。

これらの研究協議と実践的研究を通して、小学部から高等部までを通したキャリア教育の基本的視点が明らかになった。

(2) 個別カリキュラムに基づいた指導の実際

就労実態に根ざしたキャリア教育のモデル提示を目指し、平成26年度より、(1)に関して、附属特別支援学校高等部において個別カリキュラムをベースにした小集団

の指導の充実を図った。

学校から就労現場へのスムーズな移行を目指し、いわゆる「現場実習」とは別に、就労環境に近づけて学習を行った。

その一つ目は、前橋市の中心街でカフェを開き、無料の喫茶サービスを行う、という形で学習を展開した。

指導に当たっては、3名の高等部3年生のそれぞれの個別カリキュラムに基づき、生徒の課題に沿って学習の目標を立てた。

カフェは週1回の開店であり、一般市民を対象に接客の実地学習を積み重ねた。事前の指導・営業中の指導・閉店後の振り返りを行い、それらに基づいて次回の改善点の明確化を重ねた。この活動においては、障害福祉サービス事業所とも連携し、利用者1名、支援員各1名と協働活動を行った。利用者は生徒と一緒に接客を担当し、支援員は教師と共に指導的な立場で活動を行った。

地域における喫茶サービス活動は、活動場所を地域とすることで、生徒達が就労をイメージできる学習環境を形成することができた。現場実習、就労等で予想されるコミュニケーション上の課題が明確化された。実習先や就労現場では即時的、長期的な指導は困難となる。しかし、個別カリキュラムに基づいた課題を基にして、教師による指導を行うことができる、という点において非常に有効であった。また、就労のイメージが明確化していく中で、就労のために自分が身につけなければならないコミュニケーション上の知識や技能も明確化していく様子が見られた。就労をイメージできる環境での学習活動を継続していく中で、生徒達の職業観や勤労観が育まれ、自分のコミュニケーション上の特性に関するより深い理解、主体的な職業の選択につながっていくのではないかと考えられる。

また、地域での活動は、地域の人とかかわる機会が増え、活動の間は地域の方からコミュニケーションにかかわる評価を受ける機会を日常的に得ることができた。地域の方からの生徒に対する賞賛、指摘は生徒達に大きな影響を与えた。積極的に人とかかわろうという姿勢につながるだけでなく、サービス業の職業観が生まれ、誰かのために働く喜びを感じ、就労への意欲向上につながった。

また、障害福祉サービス事業所と協働活動を行うことで、支援員から指導を受けたり、利用者の働く姿を手本としたりすることができた。このことも、生徒達のコミュニケーション能力の向上につながった。

二つ目の学習活動は、ビルメンテナンス活動である。活動場所は、特別支援学校だけでなく、同じ敷地内にある附属小学校の教室や廊下の清掃作業を試みた。

附属小学校は附属特別支援学校と併設された学校ではあるが、特別支援学校の外部機関であり、身近な地域社会ととらえられる。

喫茶サービスと同様に、より実際の就労に近い場面で作業に取り組むことにより、就労のイメージを形成していくことができた。

ビルメンテナンス活動においても、個別カリキュラムに基づき、卒業後の就労を意識した授業を行う中で支援の変更・調整を行い、その支援の有効性を確認したり、課題を明確にしたりすることができた。

喫茶サービス活動、ビルメンテナンス活動の両活動において、卒後の就労環境により近づけて学習の環境を整えることにより、生徒達の意欲の向上、及び発展的な学習につながる事が明らかになった。さらに、学習活動の目標設定において、個別カリキュラムを活用することにより、生徒達の個々の成長に合わせ、就労移行につながる活動を展開することができた。個々の特性に配慮して言葉かけや、発展的な活動を展開することにより、生徒達の意欲はより高いものになった。今後はこれらの活動の結果を個別カリキュラムに反映させ、現場実習先や、就労先で有効に引き継いでいくための方策を継続して考えていきたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計11件)

上田征三、金政玉、障害者差別解消法とインクルーシブ教育の課題、東京未来大学紀要、査読無、第9号、2016、21-30頁

高橋源太郎、松本優、金澤貴之、松田直、地域の資源を活用した教育活動に関する実践的研究-特別支援学校高等部生徒が地域で喫茶店を開く取り組み-、群馬大学教育学部紀要人文・社会科学編、査読有、第64巻、2015、93-101

仲濱佳穂、金澤貴之、霜田浩信、聴覚・知的重複障害者Tさんとの「調べ学習」の展開に関する実践的研究-「なんで」という疑問詞の獲得プロセスに注目して、群馬大学教育実践研究、第32巻、査読無、2015、115-121

上田征三、金政玉、インクルーシブ教育と合理的配慮、東京未来大学保育・教職センター紀要「未来の保育と教育」、査読無、第2巻、2015、51-60頁

上田征三、金政玉、障害者の権利条約とこれからのインクルーシブ教育、東京未来大学紀要、査読無、第7号、2014、19-29頁

野田敦史、上田征三、施設実習における現場職員と学生の二つの関係、東京未来大学実習サポートセンター紀要、査読無、第1号、2014、9-18頁

五十嵐一徳，霜田浩信，知的障害のある自閉症児に対する視覚的補助茂樹の有効な活用法-買い物場面における品物の所在を尋ねる行動の習得を通して，広島大学大学院教育学研究科附属特別支援教育実践センター研究紀要，査読無，12巻，2014，49-58頁

群馬大学教育学部附属特別支援学校，学びを生かし、生き生きとした暮らしを開く児童生徒の育成-地域社会への参加を見通した合理的配慮の提供に向けて-，群馬大学教育学部附属特別支援学校平成26年度研究紀要，査読無，2014，1-77頁

吉野浩之，草間龍一，いま PEG（胃瘻）の適応を考える（小児患者），消化器臨床，査読無，25-6巻，2013年，926-928頁

吉野浩之，在宅経管栄養法-胃瘻・腸瘻・経食道経管栄養，小児内科，査読無，45-7巻，2013年，1259-1263頁

吉野浩之，外出時の対応（NICUからはじまる在宅医療），周産期医学，査読無，43-11巻，2013年，1407-1411頁

〔学会発表〕（計1件）

松田直，障害の重い子どもの教育-歴史的経緯と今後のあり方を考える，日本特殊教育学会第53回大会，準備委員会企画特別講演，2015年9月20日，東北大学

〔図書〕（計5件）

群馬大学教育学部附属特別支援学校，「学びを生かし、生き生きとした暮らしを開く児童生徒の育成-個別の教育支援計画の活用視点をあてて」，上武印刷株式会社，2014，115頁

金澤貴之，「手話の社会学」，生活書院，2013，378頁

上田征三他，「よくわかる障害児教育」，ミネルヴァ，2013，232頁

吉野浩之他，「実践！！小児在宅ナビ」，南山堂，2013，388頁

吉野浩之他，「NICUから始める退院調整&在宅ケアガイドブック」，メディカ出版，2013，309頁

〔産業財産権〕

出願状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

松田直 障害の重い子どもの教育 歴史的経緯と今後のあり方を考える，日本特殊教育学会準備委員会企画特別講演，平成27年9月 日本特殊教育学会第53回大会プログラム p33.

6. 研究組織

1) 研究代表者

松田 直 (MATSUDA TADASHI)

高崎健康福祉大学・人間発達学部・教授

研究者番号：60099942

(2) 研究分担者

金澤 貴之 (KANAZAWA TAKAYUKI)

群馬大学・教育学部・準教授

研究者番号：50323324

霜田 浩信 (SHIMODA HIRONOBU)

群馬大学・教育学部・準教授

研究者番号：80364735

吉野 浩之 (YOSHINO HIROYUKI)

群馬大学・教育学部・準教授

研究者番号：60438637

上田 征三 (UEDA YUKUMI)

東京未来大学・こども心理学部・教授

研究者番号：50309639

(3) 主な連携研究者